78巻2号　　2023年4月1日

YAA 天文会報

（4～6月号）

796号

〒226-0016
横浜市緑区霧が丘 4-1-7-402
正木　仁　方
Mail: masaki@e08.itscom.net
HP: http://home.n03.itscom.net/yaa/index.html

横浜天文研究会

M51 子持ち銀河　　撮影：山形幹夫

観望ガイド

正木

今年は驚くほど早い桜の開花でした。桜というと昔は入学式のイメージ、私が社員研修を担当していた時は満開の桜のもと新入社員を迎えていました。しかし、最近は卒業式が桜の最中なのですね…

真冬と違って、晴れていても花粉のせいもありますし、大気中の水蒸気も増えてきて白っぽい青空になってきました。星空も霞んできました。

4月は12日に水星が東方最大離角、それをはさんで1～2週間が日没後の西空に見やすくなります。明るく目立つ金星と地平の間を探してみてください。4月21日には月齢1.2と非常に細い月と接近しますので、金星とともに夕焼けが残る薄明の中の姿を撮るのも良いですね。今回の東方最大離角は今年一番の高度となっており、見やすくなっています。春分の頃は日の入り時の黄道の傾きが大きい（地平から立っている）ため、その頃に東方最大離角になると地平からの高度が高くなり、普段なかなか見つけにくい水星が見やすくなります。逆に秋分のころは、明け方の黄道の傾きが大きいため、その前後に西方最大離角になると見やすくなり、今年は9月22日です。

最終ページの天象にもあるように、20日オーストラリアからニューギニアの方で金環日食があり、日本の太平洋側の一部で部分日食が見えるのですが、残念ながら横浜では部分食の北限界線の外側となり見ることはできません。ざっくりですが房総南端、静岡南部、紀伊半島・四国・九州の南部、奄美沖縄地方なら見ることができます。

23日はこと座流星群の極大日で、月明かりの影響がなく好条件で観測できます。

5月は11日が暦のうえでの入梅、そろそろ梅雨入りが気になるころですが、5日こどもの日の夜の日付を越えた6日深夜に半影月食があります。02時23分に一番本影に近づくのですが、肉眼ではちょっとわかりにくいと思います。しかし、写真に撮ると月面と半影の明暗が判りやすいです。

5月は7日に極大となるみずがめ座η流星群がよく知られていますが、今年は6日が満月で月明かりに邪魔されてしまいます。

6月4日は金星が東方最大離角、日没時には地平から40度ほどの高さになり、夕空にその輝きがたいへん目立っています。これから7月7日の最大光輝（－4.5等）、8月12日の内合に向かってどんどん高度が低くなっていきます。

11日に、脈動変光星の代表のひとつであるはくちょう座χが極大になります。光度3.3等から14.2等を410日ほどという長い周期で変化します。ちなみに有名なくじら座のミラは5月28日に極大となっています。こちらは2.0～10.1等を328日周期で変化します。

焦点調節はスパイダー回折光で

山形幹夫

この原稿を書いている3月25日、桜が満開となっています。この冬も秋の終わりが遅く、春の訪れが早いように思います。冬らしい晴天の日が少なく、仕事の都合もあり撮影に出かかる機会がありませんでした。掲載の画像はオリオン座三ツ星ζ星アルニタクの周囲、燃える木星雲、馬頭星雲等が写っています。

前号掲載のくらげ星雲と同じく2022年10月28日に撮影。口径25cm f1000mm Nikon D810A ISO5000 60秒×30コマ、撮影地は入笠山。斜鏡スパイダーによる回折光がζ星に強く見えますが、先端の方が２本に分離している状態が良くわかります。ニュートン式望遠鏡ではこのようにスパイダー回折像を観察して焦点調節を行うことが可能です。なぜ本画像のようになったかと言うと、調節完了と判断しドロチューブをロックした時に固定ネジによる締め狂いが発生したためです。クレーフォード式ドロチューブでは発生しやすいようで気を付けます。

副鏡スパイダーの無い屈折式やシュミットカセグレンではバーティノフマスクを使用して恒星の回折光により焦点調節を行うことがありますが、最後は同じ注意が必要です。

電動フォーカサー付けようかな、と最近弱気な私です。因みにSkyWatcherコマコレクタは輝星によるゴーストの発生が少なく秀逸と思います。

【表紙写真】M51 子持ち銀河　おおぐま座

撮影日：2022年5月29日 撮影地：長野県入笠山　25cm f1000mm SkyWatcherコマコレクタ直焦点　カメラ：Nikon D810A ISO5000 60秒×44　フラット60秒×7　コンポジット　正方形にトリミング有・縦寸法は凡そAPS-Cサイズ程度

日月星の伝承を訪ねて（75）

横山好廣

横浜金沢の星　①

横浜金沢は横浜市金沢区のことで、此処で採録した日月星の伝承を紹介する。なお本紙に既掲載の「小柴の星①②③」(「日月星の伝承を訪ねて　31.32.33」)・「横浜市金沢区野島町」(「同　34」) と重複することを付記しておく。

横浜市南部に位置する金沢は横須賀市・逗子市・鎌倉市と隣接し、特に鎌倉と関係の深い中世の歴史遺産が多いところである。また、金沢八景は風光明媚なことで文人墨客に好まれ、近世には庶民の物見遊山の行楽地でもあった。殊に、金沢八景を描いた歌川広重の浮世絵はよく知られている。

文末表記・(釜利谷町 1984.8.20) は調査地と調査年月日を示す。調査地に断りがないときは金沢区内の町名である。また、○○○○氏 (83) と話者の氏名と調査時の年齢を表した。再掲出のときは姓と年齢のみを示し、・・は未詳部分。

大熊座　北斗七星

●ナナツボシ（七つ星）

・森喜三郎氏（83）から採録（釜利谷町 1982.6.5)。

・釜利谷に隣接する磯子区氷取沢の岡本・・氏からも採録（磯子・氷取沢町 1983.7.27)。

●ナナツノホシ（七つの星）

・黒川秀吉氏（78）から採録（野島町 1982.7.27・29)。

●ナナボシ（七星))・シソウボシ（四三星）

・二例とも斉田亀三郎氏（80）から採録。「ホッキョクボシ（北極星）の周りをまわる」「シソウは四と三で、合わせて七になる」(柴町 1981.10.3)。

小熊座　北極星

●ホクセイ

・「北西の方にある一つの星で、動かぬ」と野本芳五郎氏 (91) から採録（富岡町 1983.7.25)。

＊ホクセイが北西の星の意か、それとも北星の意か不明。

●キタノヒトツボシ（北の一つ星)・キタノミョウジョウ（北の明星）

・森氏 (83) から二例とも採録。「兵隊では北極星と言っていた」(釜利谷町 1982.6.5)。

●ホッキョクボシ（北極星）

・「北にあって動かない星」と斉田氏（80）から採録（柴町 1981.10.3)。

さそり座　アンタレス三星

●テンビンボシ（天秤星）・シオヤボシ（塩屋星）

・二例とも小峰喜四郎氏（81）から採録。「塩田から本郷へ天秤に塩笊を掛けて売りに行く途中に塩嘗地蔵へ供えたもので、塩を運ぶ様子からこの名が付いた」（釜利谷町 1982.8.20）。

塩田―かつて金沢の海辺で塩づくりが盛んに行われていたことは近世の金沢の絵図からも窺われる。塩焼きで燃やす木々の主な供給地は釜利谷の山林ではなかったかと想像する。

本郷―横浜市栄区。釜利谷～大船の途中に位置する。

塩嘗地蔵―鎌倉市十二所の光触寺（こうそくじ）に祀られている。六浦（むつうら）方面から朝比奈峠を越えて鎌倉に入る塩売りが、商いの初穂としてお地蔵さんに供えた塩が、帰りには消えていることから付いた名といわれている。

＊　思い掛けずアンタレス三星の和名を耳にしたときはとても嬉しかった。小峰氏から得た星の和名はこれだけであったが、本当に幸運であったと、今更ながら思う。「カゴカツギシ（籠担ぎ星）」や「ボテーボシ（棒手星）と同じ発想のもとに生まれた名である。

この和名と塩嘗地蔵伝説から次のようなことを推理した。①釜利谷では塩田で塩づくりをしていた。②釜利谷の塩売りは朝比奈峠の塩嘗地蔵に立ち寄り塩をお供えしてから、本郷の方で商いをした。③一方、鎌倉の海は塩田に向かないという事情があって、鎌倉へは六浦（むつうら）方面の塩売りが商いに行っていた。④塩売りに縄張りがあったことを示唆している。

＊鎌倉市十二所 793　光触寺の塩嘗地蔵（元々の所在地不明）　手前に六地蔵

（つづく）

天　象

相原　榮

4月

水星:夕方の西天で高度を上げる、上～中旬は観望好期　−1.1～+6.6等　うお→おひつじ座
金星:夕方の西天、宵の明星で輝く、観望好期　−4.0～−4.1等　おひつじ→おうし座
火星:夕方に南中、夜半頃に沈む　+1.0～+1.3等　ふたご座
木星:太陽方向、観望困難　−2.0～−2.1等　うお座
土星:未明に昇る　+0.9等　みずがめ座

5日　10h13m　清明
6日　13h35m　満月
11 日　夕方の西天で金星とプレアデス星団が接近
13 日　18h11m　半月(下弦)
20 日　13h13m　新月　関東以西の太平洋側で浅い部分日食
17h14m　穀雨
22 日　夕方の西天で月とプレアデス星団が接近
23 日　10h　こと座流星群が極大の頃(月没後は条件最良)
夕方の西天で月と金星が接近
28 日　06h20m　半月(上弦)

5月

水星:明け方の東天低空～徐々に高度を上げる　+6.6～+0.4等　おうし座
金星:夕方の西天、宵の明星で輝く、観望好期　−4.1～−4.3等　おうし→ふたご座
火星:夜半前に沈む　+1.3～+1.5等　ふたご→かに座
木星:明け方昇る、観望困難　−2.1等　うお→おひつじ座
土星:夜半に東南東天へ昇る　+0.9等　みずがめ座

6日　02h34m　満月　全国で半影月食
03h19m　立夏
23h　みずがめ座η流星群が極大の頃(月があり悪条件)
12 日　23h28m　半月(下弦)
14 日　明け方の南東天で月と土星が接近
18 日　明け方の東天低空で月・水星・木星が集合
20 日　00h53m　新月
21 日　16h09m　小満
23 日　宵の西天で月と金星が接近
28 日　00h22m　半月(上弦)

6月

水星:明け方の東北東天で高度を下げる　+0.4～−2.2等　おうし座
金星:宵の明星、夕方の西天に輝く、観望好期　−4.3～−4.6等　ふたご→かに→しし座
火星:夕方の西天　+1.5～+1.7等　かに→しし座
木星:夜半過ぎに昇る　−2.1～2.2等　おひつじ座
土星:夜半前に昇る、観望好期　+0.9～0.7等　みずがめ座

2日　宵の西天で火星がプレセペ星団の中を通過
4日　12h42m　満月
6日　07h18m　芒種
11 日　04h31m　半月(下弦)
18h09m　月が海王星の南を通過
13 日　宵の西天で金星がプレセペ星団の北を通過
18 日　13h37m　新月
21 日　23h58m　夏至
22 日　宵の西天で月・金星・火星が集合
26 日　16h50m　半月(上弦)
28 日　07h　6月うしかい座流星群が極大の頃